

## 高山帯の植物

### 森林限界を超えて栄える

南アルプスの高山帯（標高 2,700 メートル以上）には、多種の山野草が自生しています。北岳の草すべりにある森林限界の上、および荒川三山として知られる三峰に見られる、花が咲き誇る高山草原は、南アルプス国立公園の最も有名な景勝地の一つに数えられています。南アルプス国立公園の高山草原で最もよく見られる花は、黄色のシナノキンバイ (*Trollius japonicus*) と白いハクサンイチゲ (*Anemone narcissiflora*) です。

ハイカーが注目すべき他の花には、どちらも鮮やかな黄色のキタダケキンポウゲ (*Ranunculus kitadakeanus*) とミヤマキンバイ (*Potentilla matsumurae*) や、いずれも白いキタダケソウ (*Callianthemum hondoense*)、コゴメグサ (*Euphrasia*)、チョウノスケソウ (*Dryas octopetala*)、そして、ピンクと紫のミヤマハナシノブ (*Polemonium caeruleum* ssp. *yezoense* var. *nipponicum*) やハクサンフウロ (*Geranium yezoense* var. *nipponicum*)、タカネビランジ (*Silene keiskei* var. *akaisialpina*) などがあります。

1990 年代後半以来、春から夏にかけて大量のニホンジカ (*Cervus nippon*) が餌を求めて高山帯に押し寄せているため、これらの高山草原の花々は脅威にさらされています。